

世界の鼓動

田中 均

香港の近代化

訪れた上海と似た雰囲気である。島々の間の高速道路網と巨大な橋は特徴的で、まるで未来都市だかいたるところに聳え立つ高層アパート群や華々しい夜景は中国的だ。英国が中国との返還協定に盛り込んだ民主化への制度的道筋は守られているように見えるが、やはり政治面で中国の影響力はきわめて強い。香港の政治家も、反中国というわけにはいかない。

香港の近年の経済回復は、中国本土の大きな成長に負う面が大きい。華南地区の経済は一体化しつつある。香港には金融、法律、会計など高度なインフラがあり、中国本土への企業進出の窓口的役割



画・onyx

究極には中国を変える

を果たしている。

先月末、久しぶりに香港を訪れた。1997年に英国が中国へ返還して以降、初である。返還後の香港は中国化の道をたどるに違いないと思う、あまり関心を払わなかった。ほぼ同時に起こったアジア通貨危機や新型肺炎SARSで、香港経済も停滞した。ところがである。最近の香港は面白い、勢いがあると聞き、訪れてみたくなった。特に中国本土との関係がどう変化しているのか、1国2制度と形容される中国と香港の関係がどう機能しているのか見たくな

った。英国統治時代のように流暢な英語を操る人は減ったし、タクシ

ーの運転手の中には、英語を解さない人も増えたように思う。先般

同時に、香港は人民元国際化の対外窓口でもある。近代的な香港の経済制度は、中国にとって大事な価値を持つのだろうか。したがって、中国は、香港の経済インフラが劣化してはならないと考えているはずだ。中国の方針に対する安心感からか、法律事務所や投資銀

行など多国籍企業のアジア拠点も、日本から香港に移ってきた。おそらく、アジアの金融センターとしての香港の地位は確立されつつあるのではないだろうか。上海は、香港に比べればローカルだ。成長する中国経済と結びつきの強い香港は、シンガポールに比べても有利である。

中国と大きく違うのは、言論の自由度、報道の自由度である。番組出演のためフェニックステレビを訪れ、とても興味深い見聞をした。同局は、香港から北京語で中国本土に番組を流しているが、中国本土のテレビ局の番組のような事前検閲はない。しかし、当局に不都合な画面がブロックされてし

まうのは外国の放送と同じ。スタジオでニュースを読み上げる女性キャスターが若々しく服装も華々しい。奇異に思ってたが、女性は台湾人で、中国本土の堅い雰囲気と差別化をはかっているという。香港から「自由」の香りを送るということだ。

多くの学生が中国から香港に留学している。講演のため訪れた大学にも中国本土の学生は多数いた。彼らは香港で本土での発禁本を読み、他の学生たちと天安門事件などについても自由に議論する。多くの学生は4年の大学留学を終えた後も香港を去ろうとしない。7年滞在すると香港永住権が取れるからである。最近では、香港側も中国本土の優秀な人材を確保するため1年で永住権を取れる制度を発足させた。学生にとって「自由」の価値はとても大きい。

私は、英国統治時代からの伝統を維持する香港クラブで「東アジアの将来と香港の役割」と題して講演した。強調したのは、政治的・経済的・社会的に近代的な香港であり続けることが究極的には中国を変えていくという点だ。

中国は台湾との関係でも1国2制度を成功させねばならないであろうし、香港の近代化は東アジア全域にとっても好ましいことなのである。(たなか・ひとし日本総研国際戦略研究所理事長)